ノリとたゆたう。

Nori to Tayutau.

瀬戸内国際芸術祭参加プロジェクト
The Seto Inland Sea_Teshima 豊島

2010年7月19日_月_祝→10月31日_日 9:00→17:00

会場　豊島_香川県小豆郡_唐櫃地区_旧海苔工場

Art Project Laboratory,Osaka University of Arts

主催　学校法人 塚本学院 大阪芸術大学グループ
瀬戸内国際芸術祭実行委員会

制作　大阪芸術大学豊島アートラボ

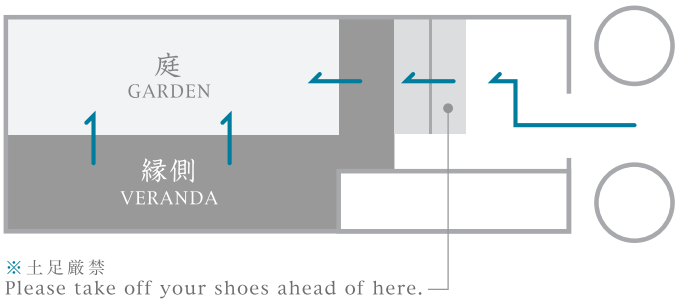
協力：株式会社メグテックス、株式会社タケナカ、東レ・オペロンテックス株式会社、(有)クイックス、株式会社はりゅうウッドスタジオ、月眠ギャラリー

Megtex　東レ・オペロンテックス株式会社　株式会社はりゅうウッドスタジオ　月眠works

ノリとたゆたう。
Nori to Tayutau.

大阪芸術大学豊島アートラボ
Art Project Laboratory,Osaka University of Arts

会場図 HALL MAP



※土足厳禁
Please take off your shoes ahead of here.

鑑賞上の注意

■本作品は、1回約16分、定員10名です。混雑時はお待ちいただくことがあります。
■会場の一部は土足厳禁となっております。また、アクセサリー等の作品を傷つける可能性のあるものは、事前にはずしていただくようお願いします。作品を清潔に保つため、また安全確保のため、ご協力ください。
■作品鑑賞中、手荷物は荷物置場に置いてください。スタッフが管理いたしますが、貴重品の持ち込みはできるだけ控えていただき、管理上特に注意を要する物品をお持ちの方はスタッフまでお声がけください。
■会場内ではスタッフの指示に従ってください。危険行為が見受けられた場合は、やむを得ず退室していただくこともあります。
■本作品は、伸縮性のある布素材を使用しており、比較的暗い室内において光や音の刺激を及ぼすものです。未就学児の鑑賞については、安全確保のため、ベランダ部分からの鑑賞になります。児童の鑑賞は、作品の特性を充分にご理解の上、必ず保護者が付き添い、監督していただきますようお願いします。
■会場内での飲食、撮影は固く禁じ、お断りさせていただきます。

大阪芸術大学豊島アートラボ STAFF

コンセプトデザイン・建築計画・造形(庭)
加治大輔(建築学科准教授)/KAJI Daisuke
小林新也(デザイナー)/KOBAYASHI Shinya

映像
アサオヨシノリ(映像学科専任講師)/ASAO Yoshinori

音響
檜垣智也(音楽学科講師)/HIGAKI Tomonari
石上和也(通信教育部音楽学科講師)/ISHIGAMI Kazuya

コンセプト編集・造形(網と産着)
水谷フミカ(クリエイター)/MIZUTANI Fumika

キュレーション・アートマネジメント
谷悟(芸術計画学科准教授)/TANI Satoru

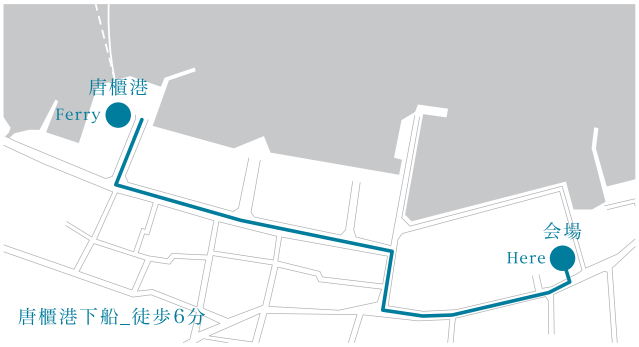
制作補助
大阪芸術大学・建築サークル tikuwa.oua、近藤央希、酒田真弓、大塚勇樹、炭鎌悠、佐藤貴雄、所正泰、緒方江美、岡田千絵、今村勇也

制作/運営協力
大阪芸術大学 建築学科学生有志
大阪芸術大学 映像学科学生有志
大阪芸術大学 デザイン学科学生有志
大阪芸術大学 芸術計画学科学生有志
大阪芸術大学 音楽学科学生有志
大阪芸術大学 通信教育部音楽学科学生有志

特別顧問
塚本英邦(学校法人塚本学院 理事長補佐/教養課程准教授)

アクセス DIRECTIONS

豊島へ ★会場(唐櫃)へは、小豆島フェリーが便利です。
□**宇野港(岡山県)ー(約40分)ー豊島(家浦港)ー(約20分)ー豊島(唐櫃港)ー(約30分)ー小豆島(土庄港)** ☆**小豆島フェリー**
□高松港(香川県)ー(約30分〜1時間)ー豊島(家浦港) ☆豊島フェリー



"もっと味わう"関連企画 RERATION PROJECTS

作品をより深く感じてもらうための関連企画を3つご用意しました。
詳しくはウェブhttp://www.oua-teshima-lab.jpをご覧下さい。

floating point ～感覚的映像の体験～

映像作家・アサオ氏による映像ワークショップ。
豊島をフィールドワークし、集めた映像で作品をつくり、海苔工場で味わいます。

日時○2010年8月21日(土) 10:00～ (16:00ごろ終了予定)
講師○アサオヨシノリ
定員○約10名。参加申し込みはホームページから。
料金○500円

ノリがたゆたう音楽会

アクースマティックコンサート。
豊島ならではの音を集め再解釈した、石上、檜垣、炭鎌による新作を発表。
電子音響と海苔が奏でる音がクロスする不思議な空間が味わえます。

日時○2010年9月25日(土) 14:00～、16:00～ ※1ステージ60分程度。2回公演。
出演○檜垣智也(演奏)、ほか
作曲○檜垣智也、石上和也、炭鎌悠
演出○水谷フミカ
定員○30名。ホームページより予約可。当日券あり。
料金○500円

シアターピースin豊島

祭典の最終日を彩る、地域に密着した総合アートパフォーマンス。
「ノリとたゆたう。」の制作に携わったアーティストたちと、地域住民がコラボレートする。
どんな味かはお楽しみ。

日時○2010年10月31日(日) 14:00～
出演○アサオヨシノリ、石上和也、加治大輔、谷悟、檜垣智也、ほか
演出○青絲亭(水谷フミカ、谷悟)
定員○30名。ホームページより予約可。当日券あり。
料金○500円

お問合わせ INFORMATION

□大阪芸術大学
0721-93-3781(平日10:00～18:00)
大阪芸術大学 http://www.osaka-geidai.ac.jp
大阪芸術大学豊島アートラボ http://www.oua-teshima-lab.jp

□ **現地へのお問合せ(開催期間中のみ)**
090-4565-0020(旧ノリ工場直通)

□ **瀬戸内国際芸術祭総合インフォメーションセンター**
087-813-2244

□ **作品鑑賞パスポートについて**
087-813-1450

Creative Direction & Photo/Tani Satoru Art Direction & Design/Muraki Toshihiro(POST-SCOPE) Text/Mizutani Fumika
Editorial Design/aoitotei Drawing/Kaji Daisuke,Haganuma Sei English Translation/Sano Ichiro

瀬戸内国際芸術祭2010
Setouchi International Art Festival 2010

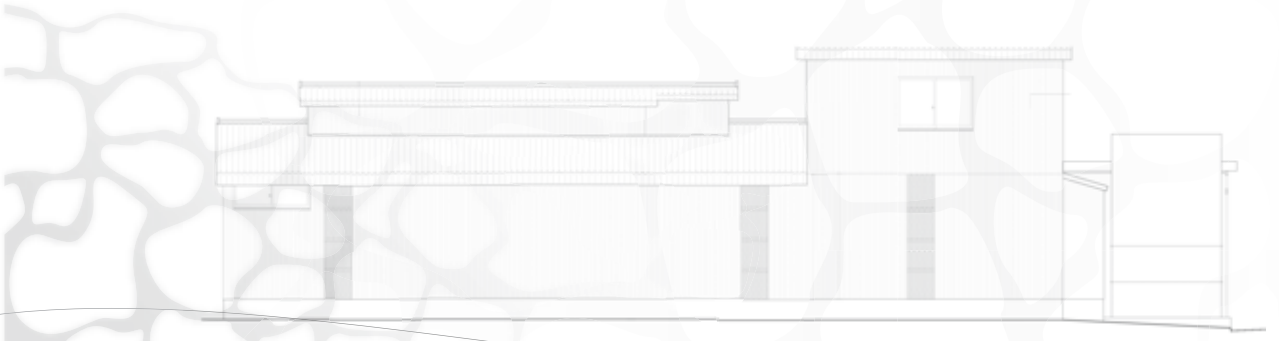
古来より交通の大動脈として重要な役割を果たしてきた瀬戸内海。
行き交う船は島々に立ち寄り、新しい文化や様式を伝え、そこで暮らす人々の生活が美しい景観や伝統的な風習を育ててきました。瀬戸内国際芸術祭は、アートを道しるべに、心癒す瀬戸内海の風景と、そこで育まれた島の文化や暮らしに出会う、現代アートの祭典です。
詳しくはウェブhttp://setouchi-artfest.jp/をご覧下さい。

育(はぐく)み、育(はぐく)まれること。

Nurturing and Being Nurtured

生命(いのち)は、だれかに大切に育まれ、はじめて「存在」するのかもしれません。私たちが日々食している野菜も肉も魚も、誰かが育(はぐく)んでくれたから「ある」のです。
海苔工場でつくられたノリは、かつて、母なる海と海苔を養殖する人の手によって、育まれました。食卓へ運ばれ、栄養として体内に取り込まれ、ノリは消化されます。地球上のあらゆる生命が、何かを食し、誰かに食されることを繰り返しています。その工程を単なる“食物連鎖”としてとらえるのではなく、“育みの連鎖”としてとらえることができないだろうかと感じるのです。いつかは食される運命の生命も、育まれているときには、たっぷりの愛情を注がれています。愛情を込めて育てたものの美味しさは、誰もが知っているでしょう。一方で、どの生命もいつかは朽ちます。けれども小さな生命を産み出したり、育てたりすることに何の迷いもないのです。
本プロジェクトでは、ノリも人間も、育まれることにおいては、同じことを体感しているのではないかという想いのもと、「育む心＝海」を感じるための装置として、旧海苔工場を作品へと転換させました。まるで水面に浮かぶかのような感覚で空間を味わえば、あなたの心に、海がもどってくるかもしれません。

We might be able to say that life exists just as a result of being carefully nurtured; vegetables, meat or fish we eat every day exist just because somebody has brought them up.
Laver produced in the factory was once grown by mother sea and those who raised seaweeds. It has been brought to tables, sent into human bodies as a nutrition and digested.
Every life on the earth repeats eating something or being eaten by something. Not taking the process as just a food chain, but taking it as a chain of raising could be an idea. A life that is destined to be eaten is given affection to the full when it is being raised. Everybody knows the great taste of food which has been nurtured with a lot of love. On the other hand, every life is not forever; every life should die after all. However, giving birth and raising a little life is made without any hesitation.
In our project this time, we tried changing the old laver-producing factory into an artistic work as a device to feel sea as what raise up something on the thought that both seaweeds and human beings have something in common in the sense of being raised. If you appreciate the space, feeling as if you were floating in the water, you might be able to ‘feel’ the sea.



ノリとたゆたう。

Nori to Tayutau.

産道　―育まれる世界へ―

海苔を養殖する網が、海から引き上げられる。その光景は、海が育んだ生命を出産するかのようで、したたり落ちる幾数もの水滴が、そとへ出たばかりのノリたちを祝っているよう。生まれたばかりの生命に、白い産着を着せて、新たな一歩をたたえてみる。
しかし、このノリたちは、いったい海のなかで何を想ってたゆたっていたのだろうか。
産道をさかのぼって、母なる海に触れ、私たちもノリのように育まれてみよう。

会場エントランスにかかる網は、廃屋となったノリ工場にひっそりと残されていました。実際に海苔を養殖するのに使われていた網です。海底にそそぐ網目模様の光のようなハンモックが、頭の上を通り過ぎます。

宿す庭　―ゆだねる場所―

静謐(せいひつ)で、やわらかな庭は、瀬戸内の海と島々。海に抱かれて身をまかせてみれば、そこは母の胎内。横たわり、ゆらゆら揺れ、”たゆたう”ための空間に身をゆだねてみる。頭も身体も力を抜いて、リラックスすると同時に、どこからか緊張感が漂う。
何ものでもない、小さな存在に戻って、海にたゆたうノリへ想いをはせてほしい。ノリたちが、島の空気に触れる日を夢見ながら、まだアンバランスな身体を海へ預け、育まれる喜びを感じている。

目の前に現れる庭は、枯山水のような雰囲気。それは、芸術祭の会場となる島々と、それをつなぐ瀬戸内海の縮景であり、境界をもたない美しい起伏の繰り返しは、自然の賜物なのです。

豊島だからできること。

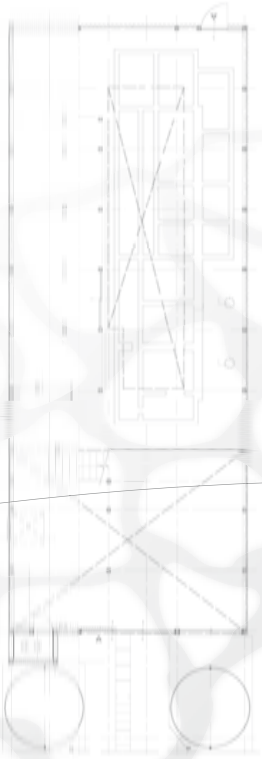
What Just Teshima Island Can Do

豊島の唐櫃地区には、今は使われていない海苔工場がある。無機質な工場内部にたたずんでみれば、海水の滴る音や海苔の香りが感じられる。この不思議な体感が容易に起こったのは、海苔が私たち日本人にとって、とても身近な存在だからであろう―。
「豊島＝豊かな島」。自然資源が豊富で、人々が悠々とした心をもって生活している。近年の不法投棄の問題、人口減少や高齢化などの数々の社会的な不安が島を覆っても、やはり豊島に永年培われた島民の豊かさが、島の魅力を守っている。
地域住民との交流でわかったのは、海苔の製造に関わったことのある人の多いことだ。皆さんが「豊島の海苔はおいしいよ」と口を揃えて言う。しかし、豊島に”名産・豊島海苔”は売られていない。現在は、自分たちが食す分だけを手元に残し、あとは島外へと出してしまうのだそうだ。
おだやかな海に囲まれた島の生活は、都市に住むものには想像しがたい。しかし、海苔の風味は皆知っている。日本人の食に欠かせない海苔が、豊島を想うためのキーワードとしてふさわしいと私たちは考えた。そして、海苔を養殖し、製造する仕事の尊さを表現することは、あらゆる食物を育む生産者たちと、育まれた生命への敬意を示すことでもあるのだ。
海は、あらゆる生命を育む大きな存在である。今一度、その“雄大さ”と“育むことの美しさ”を再確認していただきたい。

In the Karato area of Teshima, there is a laver-producing factory which has ceased running. Standing inside the empty factory, we feel as if we were hearing seawater dropping and smelling seaweed. We might be able to enjoy such a feeling probably because laver is very familiar to Japanese people.
Teshima, ‘rich island’ literally, is full of nature, where people live their lives leisurely. Even though the problems, such as illegal dumping, downsizing population and aging society, worry them, perpetual charms of their leisurely lives seem to get over the depression.
What we knew through interactions with people in the island is that many people were involved in laver production. All of them say, “Teshima Laver is good.” Teshima Laver, however, is not on sale. They say that they keep some amount they need to themselves and get the rest of it out of the island.
Their life, surrounded by the calm sea, is beyond city dwellers’ imagination, but all of us are familiar with the flavor of laver. Therefore, we’ve got an idea that laver, without which we can’t live, is the suitable keyword to keep Teshima in mind. And also, expressing the value of the work of producing laver probably shows respect, after all, to producers of all kinds of food and to life nurtured.
The sea is a great existence that nurtures every life. We would like you to reconfirm the greatness of the sea and the grandeur of nurturing things.

大阪芸術大学だからできること。

大阪芸術大学豊島アートラボは、大阪芸術大学の建築学科、芸術計画学科、映像学科、音楽学科、デザイン学科、通信教育部の教員・学生・出身者で構成するチームです。
大阪芸術大学は、大阪府南河内郡河南町にある総合芸術大学です。15学科34コース15研究分野の幅広い芸術領域を有し、各領域を超えて交感する学生や教員が多数在籍しています。瀬戸内国際芸術祭へ参加するにあたり、大阪芸術大学が建学の精神のひとつとして掲げる「境界領域の開拓」を体現したプロジェクトを立ち上げることとしました。また、教育機関として、より多くの皆さまに芸術を身近に感じてもらえるようなコンセプトによる体験型作品として制作をすすめ、展開しています。
大阪芸術大学の特性を最大限に活かした本プロジェクトによって、ご来場の皆さまにアートの魅力をお伝えできれば幸いです。



そそがれる音　―うちなるささやき―

海に育まれるとき、静寂が私たちを包む。遠く、かすかに聞こえる音たちは、何を語りかけてくれているのだろうか。うちなる鼓動。うちなる声。メロディーがなくても、それは特別な子守唄。たゆたうノリが聞いている音も、きっと美しい音ばかり。泡ぶく、波、船の音。そしてノリを育む人々の愛情こもったやさしい声。
私たちもノリたちも、同じような音を聴きながら育まれたのかもしれない。

庭で聴く音たちは、「ノリが聞いている音」。海苔に耳はないけれど―。庭の中には、少し気まぐれな特殊な音も存在します。あなたが聴いている音は、あなたしか聴いていないかもしれません。

ほのかな光　―そとへの誘い―

海にたゆたうとき、波間にはひとすじの光がそそがれる。その光は、宇宙からやってきた光なのか―。光の波は様々なかたちに姿を変えながら、やさしく私たちをくすぐる。光は、生まれるための道を照らしてくれる道しるべのようだ。育まれた身体が、明るいほうへすすもうとする。
新しく触れる世界は、私たちから水分を奪い、胎内の記憶を消し去ってしまう。
あとは生命をどう活かすのか。新しい生命のためにこの身を活かしたい。

庭に投射される映像は、「小さな生命のための光」。目で見る光と皮膚で感じる光が、あなたと、あなたをとりまくあらゆる空間をつなぎます。光が照らし、闇が包む世界は、生と死とが表裏一体であることまでも想わせます。